

United Nations Global Compact  
United Nations  
New York, NY 10017  
United States of America

July 5, 2021

## UN Global Compact Communication on Engagement

この書面により、学校法人聖学院は、国連グローバルコンパクトが掲げる 10 原則および、SDGs 達成に向けての推進活動に賛同し、「神を仰ぎ 人に仕う」という当学校法人の教育理念に基づいた活動の実践によって、グローバルコンパクトの支援となる活動を継続して行っていくことを表明します。私たち、学校法人聖学院の SDGs 推進に向けての考え方と活動実績は、添付した資料をご参照ください。

With this letter, Seigakuin University & Schools agrees to the Ten Principles of the United Nations Global Compact and promotional activities toward achieving the SDGs and expresses our intention to continue to carry out activities that support the Global Compact by practicing activities based on our educational philosophy of "Love God and Serve His People."

We expressed our ideas and list of past activities as Seigakuin University & Schools toward promoting the SDGs in the attached document, Please refer to it.

学校法人聖学院は 2018 年に策定した長期ビジョンにおいて、「誰一人取り残さない」世界を目指すことを宣言いたしました。学校法人聖学院は幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、大学院を擁するキリスト教主義の学校法人です。それぞれの学校の発達段階に応じて、相応しい「誰一人取り残さない」世界を目指す実践を行っております。私たちは、世界中の人々と協力をして、持続的な未来を描いていくためには、教育の力が大きいことを自覚しています。また、教育はもちろんのこと、聖学院の各校の資源を活用し、地域の課題解決に貢献できると考えています。

Seigakuin University & Schools vowed to aim for a world where "No one will be left behind" through our long-term vision, formulated in 2018.

Seigakuin University & Schools is a Christian educational corporation that has a preschool, elementary school, junior high school, high school, university, and graduate school. At each level of educational development, our practice is consistent with our vision for a world where "No one will be left behind."

In order to work with people around the world to shape a sustainable future, we are aware of the significant power of education.

In addition to education, we believe that we can utilize each of Seigakuin's schools' resources to contribute toward resolving regional issues.

神から与えられた私たち聖学院が、学校法人としての社会的責任とその能力に期待されることにおいて、地域に、日本に、世界に、地球に、未来に対して貢献することを誓い、国連グローバルコンパクトへの宣言といたします。

We, as Seigakuin, blessed and provided for by God, have a social responsibility as an educational corporation, relied upon for our abilities, vow to contribute toward the future of the region, Japan, the world, and the Earth, and declare allegiance to the United Nations Global Compact.

Cordially submitted



Masayuki Shimizu

Chair

Seigakuin University&Schools

## 国連グローバル・コンパクトの活動を促進する本法人の活動報告 Description Of The Practical Actions (2019年7月～2021年6月末)

### 1. 学校法人 聖学院全体の活動の要約

聖学院は学校法人全体で2018年4月にグローバルコンパクトの署名をし、グローバルコンパクトネットワークジャパンの会員となりました。当初は学内から「署名、加入によってどのようなメリットがあるのか」など、自己の利益に焦点を当てた質問が出ることもありましたが、徐々にSDGsの重要性が理解されるようになり、認知が進み、さまざまな活動が行われるようになりました。

従来から行われている授業にSDGsの要素が組み込まれ、SDGsをコンセプトとする特別な授業や活動も企画、実施されています。また教育でのSDGs推進にとどまらず、エネルギー問題の視点から学校の照明をLED化するなど自らの活動にもSDGsの観点が加えられています。そして、こうした学校の授業や活動、態度に共鳴し、自発的にSDGsを目指す活動を行う生徒や学生が登場しました。さらに広報セクションがSDGsに関連する学校や生徒、学生の活動を取り上げ、広報誌やWEBサイト、SNSで発信していくことで活動が促進されて次のアクションへとつながる好循環が生まれています。

聖学院小学校、女子聖学院中学校・高等学校（以下、女子聖学院中高）、聖学院中学校・高等学校（以下、聖学院中高）の東京都北区駒込に所在地のある3校は、「法人・教育デザインプロジェクト」を発足、プロジェクトにおける3つのテーマの1つを「SDGs」として、各校で実施している活動の情報共有を行うとともに3校で協働して行う活動を計画しました。このプロジェクトが発端となって2020年に実施されたのが「聖学院SDGsコンテスト PHOTO & MOVIE」で、コンテストは継続的に行う予定です。さらにはコンテストの受賞作品の発表も兼ねて、女子聖学院中高と聖学院中高の生徒の活動をコンテンツとして日本経済新聞社主催の「エコプロ Online」への出展を行いました。

埼玉県上尾市を所在地とする聖学院大学では2019年に「産官学連携+SDGs推進+ダイバシティ推進プロジェクト」が組織され、「聖学院大学SDGsプロジェクトチーム(教職員組織)」や「食堂寄付メニュープロジェクト学生メンバー」「Petit Arche」などのチームの発足のきっかけとなりました。

### 2. 聖学院各校の活動報告

#### 聖学院小学校

##### ◇2021 SDGs 実践計画表の作成

総合科、生活科をはじめ各学年各教科の内容にSDGsのゴールを当てはめてマッピングをした年間の実践計画表に基づいて教育活動を行なっています。

##### ◇チャイルドサポーター制度での支援

## 学校法人聖学院 COE(Communication on Engagement)添付書類

日本国際飢餓対策機構が推進するチャイルドサポーター制度に賛同し、2016年より支援を行っています。各学年が「里親」となりバングラディッシュ、カンボジア、フィリピン、ボリビアなど対象国の子どもを「里子」として毎月の誕生献金から送金しています。教室には支援している「里子」の写真を飾り、クリスマスカードの交換も行っています。

### ◇ACEF（認定NPO アジアキリスト教教育基金）への協力

ACEFは「すべての子どもたちが教育を受けられるようにすること」を目的として1990年に組織され、バングラディッシュの小学校の支援などを行なっています。聖学院小学校の聖学院フェア（文化祭）では毎年ACEFが出店し、バングラディッシュの女性の手作りの商品を販売しています。また児童会宗教委員会の児童は募金箱による募金活動を実施してACEFを支援しています。

### ◇宿泊行事による学びと学年ごとのテーマ

「4年生冬の学校」という宿泊行事では自然環境や地球温暖化について考えるワークショップを実施しています。また「水」を学年のテーマとしています。6年生の長崎の修学旅行は「平和教育」をテーマとしています。その他の学年では、3年生は「世界の地」5年生は「世界の食」をテーマに世界の課題について学んでいます。



チャイルドサポーター制度

## 女子聖学院中学校・高等学校

### ◇戦争と平和を考える特別授業（中1～高2、2月）

原爆に関する映画鑑賞と戦争体験伝承者の講演を実施し、戦争と平和についての感想文を書きました。

### ◇国語授業「聞く・話す」（中2、2月）

グレタ・トゥーンベリさんのスピーチを参考にし、環境問題の解決を考えるプレゼンテーションを実施しました。3名の生徒のプレゼンテーション動画は「エコプロ Online」のコンテンツの一つとして出展しました。

### ◇社会科授業「歴史×SDGs」（中2、12月）

戦争についての歴史を振り返り「戦争のない社会」のために重要なSDGsのゴールについて考え、ポスターにまとめて発表しました。

### ◇進路課題「私が気になる社会の姿～どのような未来を創りたいか考えてみよう～」（中3）

自分の関心事を掘り下げ、それを取り巻く社会や社会に向き合い働く人々の姿を知り、自分ならばどうしたいか、どんな未来を創りたいか論理的に考えて発表しました。

◇英語授業「アクティブ・リーディング」(高1、高2)

社会課題(環境、経済格差、少年兵、安楽死など)を題材としたテキストを用いて(1)世界を読み、(2)論理を把握し、(3)英語で要約し、(4)題材をさらに深掘りし、自分の意見を英語で発信しました。

◇国際プログラム(高1、10月実施)

英語でSDGsを学ぶイマージョンレッスン。

◇社会科授業(地理)「世界の食糧問題に目を向ける」(高2)

食糧が足りない国、余っている国があるのはなぜかを考え、食糧不足や飢餓が生じる理由やそれに対する取り組み、世界の食糧事情、日本の課題などを探究しました。

◇進路プログラム(高1)

SDGsの世界観をカードゲームとレゴによって楽しみながら体感し学びを深めました。

◇パラスポーツ応援プロジェクト(高1~高3、課外)

パラスポーツの魅力を広め、人々の意識における「心のバリアフリー」を実現させる活動で、高齢者施設、特別支援学校等でボッチャ体験会を実施しました。

プロジェクトについての詳細は『東洋経済 ACADEMIC SDGsに取り組む小・中・高校特集』(東洋経済,2020)に掲載されています。



教育や経済の格差を話し合う英語の授業



進路課題「私が気になる社会の姿」

聖学院中学校・高等学校

◇宿泊学習

SDGs と共通のコンセプトを多く持つ、糸魚川農村体験、ソーシャル・デザイン・キャンプ、沖縄平和学習、タイ研修、カンボジア研修などの宿泊学習を実施しています。

2019 年度に実施したタイ研修 (2019.12) のレポート集を 2020 年 9 月に発行しました。

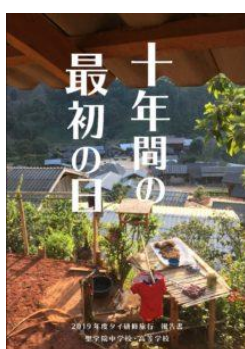
■レポート集概要 2019 年度タイ研修旅行参加者レポート『十年間の最初の日』

発行人：聖学院中学校・高等学校 校長 角田 秀明

編集人：伊藤 豊

頁数：200 頁

発行日：2020 年 9 月 4 日



2020 年度の宿泊学習はすべて中止となりました。

◇思考ラボ「SDGs カードゲーム」

SDGs カードゲームを通して「経済」「社会」「環境」をバランスよく実現していくことの大切さを体感しました。

◇思考ラボ「貿易ゲーム」

貿易ゲームを通して、国別の資源の不平等によって国の発展に大きな差が開くことを体感しました。

◇思考ラボ「留学生協働ラボ」

海外留学生 (在日大学生) の出身国のことを知り、お互いの国の良さを活かしあい、何ができるかをレゴで表現し、英語でプレゼンテーションしました。

◇思考ラボ「Cooking Innovation」(2019.11/23)

料理を通して国を知ることとジェンダーギャップの解消を目的として、男性の家事・料理への関与率の低さを知り、男性が料理をしたくなる世界をレゴで表現しました。

◇英語授業「Global Study」(中 3)

世界における Global Issue を取り上げ、写真や英語のテキストでインプットし、最終的には自分の意見を英語でアウトプットしました。

◇理科探究 (中 1)

生物多様性を体感し、その損失を阻止する態度を育てています。

◇社会科授業「世界地理」(中 1)

歴史的、経済的な背景から多角的に考え、思考力とグローバルな視点を養っています。パレスチナ問題やアフリカの食糧・貧困問題など国際問題を考察し、世界の動きを学びました。

◇総合的な学習「LLT (Learn Live Together)」(中1)

命の大切さ、いじめ問題の克服、人間関係の構築について学びました。

◇現代社会 (高2)

大学生の環境活動家、露木志奈さんを招き、環境について考える対話型の授業を行いました。

◇聖学院大学リレー講座 政治経済学部政治経済学科

「SDGs について多角的に学ぶ・考える・行動する」

1 学期～グローバルな視点から (3 回)

第一回課題「なぜ、今、SDGs なのか」高橋愛子教授

第二回課題「現代日本における女性の権利～SDGs の視点から」石川裕一郎教授

第三回課題「ピースビルダー～ことはじめ」西海洋志准教授

2 学期～ローカルな視点から (3 回)

第四回課題「地域をつくる学びと ESD」若原幸範准教授

第五回課題「多様な働き方と SDGs」長嶋左央里准教授

第六回課題「日本の地方自治制度を考えるーその歴史と今ー」猪狩廣美特任教授

◇パラスポーツ応援プロジェクト (女子聖学院中高との共同プロジェクト、女子聖学院参照)

◇みつばちプロジェクト

屋上に巣箱を設置し、みつばちを飼育しハチミツを作って販売しています。渋沢栄一翁の大河ドラマ化によって設置された東京都北区飛鳥山公園の渋沢×北区飛鳥山おみやげ館などで聖学院みつばちプロジェクトのハチミツが販売されています。



現代社会 露木志奈さん授業



聖学院みつばちプロジェクトの活動

聖学院大学

◇SDGs をテーマに盛り込んだ授業の増加

全学部：「平和学」（教養科目として開講、全学部生が履修可能）

政治経済学部 政治経済学科：「平和学」「社会への扉を開く（オムニバス）」

人文学部 欧米文化学科：「環境学」「国際ボランティア入門」

人文学部 児童学科：「専門演習（理科）」

大学院 政治政策学研究科：「政治・政策学研究（オムニバス）」

※政治経済学部 政治経済学科は教員の専門分野と SDGs アイコンを結びつけた在学生向けのブックレットも作成しています。

◇公開講座

「SDGs 達成を目指して生きるということ」（2019,11/20）

講師：大室直子氏 国連世界食糧計画（WFP）民間連携担当マネージャー

「世界が見た日本のヒューマンライツ」（2019.12/19）

講師：藤田早苗氏 英国エセックス大学 ヒューマンライツセンターフェロー

「人の移動と SDGs」（2020.1/15）

講師：佐藤美央氏 国際移住機関 駐日事務所代表

◇ハンセン病勉強会（2019.7/15,16） 資料館見学（2019.9/27）

◇SDGs 寄付メニュープロジェクト（2019.12/9～23）

「食堂寄付メニュープロジェクト学生メンバー」が中心となり、教職員の協力のもと学生×株式会社レパストのコラボレーションで実現したプロジェクトで、学食の売上金の一部を国連 WFP（World Food Programme：世界食糧計画）に寄付する仕組みを利用して発展途上国の子どもたちへの学校給食支援のための活動を行いました。

◇環境ワークショップ「新聞紙ごみ箱づくりワークショップ」（2020.11/10）

SDGs 学生チーム「Petit Arche」が企画し、教職員の協力で実施したワークショップで、対面、オンラインを同時実施 23 名が参加しました。新聞紙で作るごみ箱はビニール袋を必要としないためプラスチックごみを出しません。いらぬ新聞紙を利用してテープなどを使わずに作成できるため、簡単に資源の削減につながります。コロナ禍の状況で定員を設けての対面の参加者は満員で、1 年生の参加者が多く、楽しいコミュニケーションの機会となりました。

◇環境ワークショップ「みつろうラップづくり」（2021.3/9）

みつろうラップはみつろうを布に染み込ませて作るラップで、布、みつろう、アイロンがあれば簡単に作れて、プラスチックごみを出しません。Teams を使ったオンライン開催で、14 名の参加者がありました。

◇「SDGs de 地方創生」カードゲーム体験会（2021.2/22、4/1）

産官学連携+SDGs 推進+ダイバシティ推進プロジェクト主催で、教職員を対象にしたカードゲームの体験会が行われました。地方創生に取り組む日本の自治体や、ソーシャル

## 学校法人聖学院 COE(Communication on Engagement)添付書類

セクターの具体的なアクションを題材にし、多様なプロジェクトの実行を通じて“行政と市民による協働”を体感できるカードゲームです。本学教職員に3名の公認ファシリテーターが所属しています。

### ◇「SDGs & Seig Newsletter」の発行

大学内のSDGsに関連する学生や教職員の活動をまとめた「SDGs & Seig Newsletter」、2冊（2019-2020、2020-2021）が聖学院大学SDGsプロジェクトチームによって発行されました。

### ◇聖学院中高授業 聖学院大学リレー講座 政治経済学部政治経済学科（聖学院中高参照）



SDGs 寄付メニュープロジェクト



新聞紙ごみ箱づくりワークショップ



SDGs & Seig Newsletter 2019-2020



SDGs & Seig Newsletter 2020-2021





学校法人 聖学院

◇さいたま上尾キャンパス教職員研修会（2020.1/13）

「多様な性について考える」講師：南 和行 弁護士

◇コロナ禍における理事長メッセージの配信

国連グローバルコンパクトは「CEOs Taking Action: Call for Video Submissions」と題し、コロナウイルスの影響下において各会員組織が取り組みをシェアし連携を深めることを目的としてリーダーのメッセージ動画を配信するウェブサイトを立ち上げました。聖学院は清水正之理事長によるメッセージを配信いたしました。

聖学院広報センター

◇「聖学院 SDGs コンテスト PHOTO & MOVIE」開催

応募期間を 2020.9/14～10/14 として、“ワタシが見つけたエコロジー”をテーマに作品を募集。聖学院各校の生徒、学生、卒業生、保護者、教職員から合計で 62 作品の応募があり、優秀作品 8 点を選出（最優秀賞 1 点、優秀賞 2 点、佳作 4 点、広報センター長賞 1 点）しました。

◇「エコプロ Online2020」に出展

日本経済新聞社が主催する「エコプロ Online」（開催期間 2020.11/25～28）の環境学習パビリオン「エコスタディールーム Online」に出展しました。出展内容は聖学院 SDGs コンテストの優秀作品の発表、聖学院中高の生徒の協力により聖学院広報センターが作成した海洋プラスチックゴミ、日本の農家と食料問題に関する動画と女子聖学院の生徒による環境問題に関するプレゼンテーション動画です。

◇学院広報誌「NEWS LETTER No.278（特集 SDGs の見つけ方）」発行

年間 3 回発行している聖学院各校の在校生保護者、教職員向けの広報誌「NEWS LETTER」で各校の SDGs を目指した活動を取り上げた特集号を発行しました。聖学院 SDGs コンテストの優秀作品の発表とエコプロ Online への参加報告を行っています。

判型：A4 判 16 頁 発行部数：約 10,000 部

送付対象：在校生徒・学生、教職員、キリスト教学校教育同盟各校、教会他

発行日：2020 年 12 月 18 日

特集テーマ：SDGs の見つけ方

&Talk SDGs の見つけ方 田村一秋（聖学院小学校教頭）×武本花奈（写真家、聖学院大学卒業生）×石原康男（フォトグラファー）

作家の時間（聖学院小学校）、教科の中の SDGs（女子聖学院中高）、糸魚川農村体験学習（聖学院中高）、産官学連携＋SDGs 推進＋ダイバシティ推進プロジェクト（聖学院大学）他



聖学院 SDGs コンテスト



NEWS LETTER No.278



エコプロ Online2020

## 本法人の活動成果の報告 Measurement Of Outcomes

### 1. 学校法人 聖学院全体の活動成果の要約

聖学院創立 120 周年を迎える 2023 年に向けて、2018 年に策定した学校法人 聖学院のビジョン 2018-2023 の柱の一つに SDGs 推進を掲げ 3 年が経過しました。SDGs 推進の具体的な行動として、理事会や ASF (All Seigakuin Fellowship) 総会での発表、教職員対象研修会、聖学院大学の学生及び一般の方を対象とする公開講演会の実施、そしてそうした活動を WEB サイトや広報誌で紹介するなどの取り組みの結果、SDGs を目指すことの意味と重要性が、生徒、学生、教職員他、多くの聖学院のステークホルダーに浸透していることを実感しています。

成果として具体的に挙げられる項目としては「教育デザイン開発センター」が設置されたことがあります。こちらは前身である「法人・教育デザインプロジェクト」を引き継ぎ、「SDGs」「英語・国際教育」「ICT 教育」の 3 つをテーマとしています。教育デザイン開発センターの SDGs の活動の一つとして児童、生徒、教職員を対象とする SDGs 認知度調査の 2021 年度実施が計画されています。

聖学院中高の高校では 2021 年度より新しいコースがスタートしましたが、このコースでは SDGs が重要なコンセプトとなっています。

SDGs への理解、重要性の認知は生徒、学生や教職員の主体的な行動にも現れています。聖学院中高の高校生は、2020 年に一般社団法人 Sustainable Game (URL : <https://www.sustainablegame.com/>) を設立し、SDGs を推進する中高生のソーシャルアクションを支援する活動を行なっています。教職員は GCNJ の SDGs 分科会をはじめ、外部の勉強会やセミナー等に積極的に参加をしています。聖学院中高と大学では複数名の教職員が自発的に SDGs カードゲームのファシリテーター資格を取得しました。

聖学院大学では地域の方をはじめ一般の方を対象とする公開講座を大学内で開講してきたことで地域から聖学院大学の SDGs の取り組みが認められ、2020 年 10 月に上尾市民活動センターの公開講座に教員が招かれ講師を務め、学生が SDGs 寄付メニュープロジェクトの取り組みについて発表しました。

### 2. 教育デザイン開発センター（聖学院小学校、女子聖学院中高、聖学院中高）

駒込に所在地のある聖学院小学校、女子聖学院中高、聖学院中高の 3 校が情報共有と共同活動によって生じる教育のイノベーションを目指す、法人・教育デザインプロジェクトが発足され、2020 年は 1 月、2 月、3 月、6 月、9 月、10 月、11 月に分科会を含む合計 7 回のミーティングが実施されました。11 月の開催でプロジェクトは一区切りとなり、コンセプトを引き継ぐ形で 2021 年 4 月、教育デザイン開発センターの設置に至りました。プロジェクトのテーマ「SDGs」「英語・国際教育」「ICT 教育」はセンターではユニットという形態

を取り、ユニットごとに担当理事が配属され、予算がつきました。ミーティングもユニットごとに行われます。ユニットのメンバーは聖学院小学校3名、女子聖学院中高6名、聖学院中高3名、広報センター職員3名、合計15名で構成されています。

こども国連環境会議推進協会事務局長の井澤友郭氏をアドバイザーとして会議体に迎え、2021年4月26日(月)に第1回目、続いて5月31日(月)に第2回目、6月28日(月)に第3回目のSDGsユニットのミーティングが実施されました。児童、生徒の学びのために、聖学院小学校、女子聖学院中高、聖学院中高3校の共同活動として何ができるのかを考え、今後の大凡の方向性を決めました。



### 3. 聖学院中高 高校グローバルイノベーションクラス

聖学院中高は2021年度より新たに高校グローバルイノベーションクラスをスタートさせました。この新クラスは聖学院中学からの内部進学に加えて、外部からの募集も行なっています。グローバル課題やSDGsを自分事として理解し、高次の研究力・協働力・創造力を育成するために「Immersion」「STEAM」「PROJECT」の3つを柱にした教育を展開します。



#### 4. 聖学院大学 SDGs 寄付メニュープロジェクトアンケート結果

聖学院大学では「食堂寄付メニュープロジェクト学生メンバー」が中心となり、国連 WFP に寄付する仕組みを利用して発展途上国の子どもたちへの学校給食支援のための活動を行いました。

##### 【実施概要】

期間：2019年12月9日（月）～23日（月）平日昼食時間

場所：聖学院大学4号館1階 学生食堂

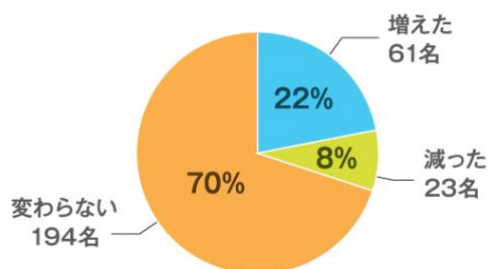
企画：食堂寄付メニュープロジェクト学生メンバー、聖学院大学 SDGs プロジェクトチーム（教職員組織）

寄付メニュー：サービスセット 400円（寄付額30円）、フライドポテト 150円（寄付額20円）、サラダ 100円（寄付額20円）

寄付金総額：22,480円（約750食分）

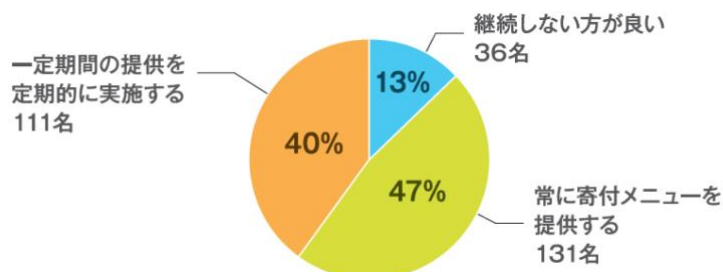
##### 【アンケート結果】

◇WFP 寄付メニューの提供期間中、4号館学食で食事する回数は増えましたか？



◇WFP 寄付メニューは継続した方が良いと思いますか？

継続した方が良いと思う方は、常に寄付メニューがある方が良いと思いますか、あるいは、今回のように一定期間（2～3週間）の企画を定期的に行う方が良いと思いますか？



◇自由回答

- 募金活動も行なっているのかなと思いました。募金 BOX などを作り、任意で賛同していただく方からお金をいただき子どもたちを救うのも一つの手だと思うので、ぜひ参考にしていきたいです。
- この企画はとても良かったと思います。企画で問題の現状を知り考えることができますので。
- 気軽に支援に参加できるルートがキャンパスの中にあることはとても良いと思うし、普段学食で食べたことがなかったのですが、この機会に食べておいしかったです！ありがとうございました。
- 今回の活動はとても良い行動。引き続き活動をして欲しい。
- そんなにお金がかからないのに貢献できたので非常にうれしいです。学食のメニューも豊富になりました。
- 今回、利用することができなかったため、次回はぜひ利用したい。

## 5. 聖学院 SDGs コンテスト PHOTO & MOVIE 開催結果

“ワタシが見つけたエコロジー“をテーマとして写真と動画を募集しました。優秀作品は学校法人聖学院の WEB サイト、日本経済新聞社が主催する「エコプロ Online」の聖学院の出展コーナー、広報誌「NEWS LETTER No.278 (特集 SDGs の見つけ方)」誌上で発表しました。

### 【実施概要】

応募期間：2020年9月14日(月)～10月14日(水)

募集対象者：聖学院で学んでいる児童、生徒、学生、保護者、卒業生、教職員、聖学院受験を考えている受験生、その他聖学院関係者

応募総数：62 作品

審査員：石原康男(フォトグラファー)、武本花奈(フォトグラファー、聖学院大学卒業生)、広報センター長、広報センタースタッフ

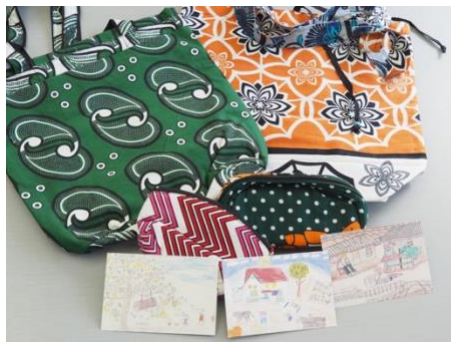
参加者プレゼント：糸魚川産木製 SDGs バッジ

優秀作品表彰：最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作4点、広報センター長賞1点

受賞者には賞状と記念品が授与されました。記念品としてバッグやポーチなど『マゴソスクールを支える会』のグッズを贈呈しました。



最優秀賞受賞作品



マゴソスクールを支える会のグッズ



参加者プレゼント 糸魚川産木製 SDGs バッジ